

# 生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2024年 5月17日 19時00分～21時00分
- 2 会場：ソニックシティビル 602会議室 教科・点数：基礎教科－20点
- 3 主題：自施設での新人・異動者に対する教育体制をもう一度見直そう！  
講演1：令和5年度 埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告  
講演2：輸血検査における教育体制について  
講演3：I&Aの取得について
- 4 講師：講演1：渡邊 一儀（獨協医科大学埼玉医療センター）  
講演2：宮澤 翔子（埼玉県済生会川口総合病院）  
講演3：長谷川 卓也（上尾中央医科グループ 八潮中央総合病院）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 18名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 大垣秀友 志村祥太

## 8 研修内容の概要・感想など

令和6年度第1回目の輸血検査研究班研修会であった。「自施設での新人・異動者に対する教育体制をもう一度見直そう！」をテーマとして、輸血検査の教育におけるポイントの説明やI&A制度の解説があり、各施設の輸血検査体制の在り方を考える上で参考となる内容であった。

始めに、渡邊氏より令和5年度埼玉県・埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告があった。試料準備から評価の集計に至るまでの一連の流れについての説明があり、参加施設数・配付試料の内容・検査方法の推移・各試料の結果及び評価について報告があった。RhD血液型は輸血においてABO血液型と同様に非常に重要な血液型である。検査の際は誤判定を防止するため、Rhコントロール試薬を使用して検査を実施する必要があるが、実施していない施設もあった（C判定）。また、結果の入力間違いや試料の取り違えと思われる結果を報告している施設が見受けられた（D判定）。日常検査においても正確な手技で検査を行い、結果報告まで責任を持って行うことが必要であると感じた。

宮澤氏の講演では、輸血検査（基本操作・血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験）の

基本的な手技について説明があった。赤血球浮遊液の適切な濃度や部分凝集が認められた凝集像など写真を交えて解説され、明日からの業務にも役立つ内容であった。講演の最後には臨床へ結果報告する際のポイントについて説明があり、講演の内容を自施設に持ち帰り、新人教育の参考にしたい。

長谷川氏の講演では輸血機能評価認定（I&A）制度の認定基準や実際に認定を受けるまでの流れについて解説があった。I&Aの目的は、輸血用血液や分画製剤の適正使用を徹底することと、輸血の安全を保証することで、より安全な輸血管理が行われることを目指すというものである。認定を受けるためには、申し込み後、視察員による視察が行われる。34項目の認定事項、42項目の重要事項をもとに輸血部・病棟などで視察が行われ、認定事項を満たしていれば認定となる。埼玉県内では4施設が認定施設となっている。外部認定を受けることで自施設の輸血管理体制に対する客観的な評価が得られ、さらには安全な輸血療法を提供できているという自信にも繋がる。

今回の講演が日々の業務の見直しを検討するきっかけとなること、また各施設での教育体制や輸血管理体制の構築の一助となることを期待する。

提出日：2024年5月27日

文責：廣田渉